

『アミロイドーシスによる虚血性 大腸炎の1例』

(霞ヶ浦・外科) ○片野素信 植竹正彦
 鮫島博之 伊藤 浩 薗田善之 小松崎薰 生方英幸
 渡辺善徳 後藤悦久 松本文和 平良朝秀 湯本二郎
 舟山仁行 佐藤茂範 中田一郎 西田清一 湯本克彦
 田端崇文 相馬哲夫 (同・病理) 草間 博
 (同・循環器) 落合恒明 (同・内科) 西川貴之

アミロイドーシスはアミロイド繊維蛋白を主成分としたアミロイドが細胞外に沈着した結果起ころる疾患であり、本邦では稀な疾患であるとされていたが、近年次第に増加する傾向にあり、日本病理剖検報によると剖検総数に対して、1958年では0.097%であったが次第に増加し、1982年では0.45%を占めるに至った。我々は長期人工透析患者に起因したと思われる全身性アミロイドーシスに併発した虚血性大腸炎の1例を経験したので報告する。

症例は61才、男性。平成2年12月6日早朝より右下腹部痛出現、症状軽減せず外来受診。来院時、右下腹部を中心とする腹部全体の強い圧痛筋性防御を認めた。また、血圧は異常高値を示し顔色は不良、眼瞼結膜に貧血を認めた。既往として、腎不全で当院内科に於いて14年前から人工透析中であった。腹部X-P像で腹部大動脈の著明な石灰化を認めた。穿孔性虫垂炎、結腸憩室穿孔、虚血性大腸炎等を疑い緊急手術を施行した。開腹所見では、肉眼的に盲腸及び上行結腸に虚血性変化を認め、腸管はゴム様の硬さを感じられた。右半結腸切除術を施行、端々吻合し手術を終了した。摘出標本ではびらん、潰瘍が多発し、粘膜壞死がみられた。病理組織像では比較的大径の血管壁にエオジン好性の無構造物質の沈着を認め、電顕像で直径8nmの分岐のないフィラメント状構造を認め、電顕的にアミロイド細繊維と考えられ、以上の所見より、アミロイドーシスと診断した。